

スタイナーネマ カーポカプサエ剤 バイオセーフ	取扱メーカー： 協友アグリ、サンケイ* 原体メーカー： エス・ディー・エス
成分： スタイナーネマ カーポカプサエ オール株の感染態3期幼虫 (250万頭/g)	性状： 淡黄色塊状 毒性： —— 消防法： ——

【品目特性】

- 昆虫寄生性センチュウ、スタイナーネマ カーポカプサエを製剤化した天敵農薬である。
- 化学農薬では防除困難な様々な害虫に効果がある。
- 成分の天敵センチュウは、大部分の化学農薬と近接散布しても効果が低下しない。
- 連用による薬剤抵抗性の心配がない。
- 葉害の心配がない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

- 芝に使用する場合には、以下の点にも留意する。
 - 散布は曇天又は小雨時に行うことが望ましい。やむを得ず晴天時に散布する場合にはできるだけ日没時に行う。
 - 芝が乾燥している場合には、散布前にあらかじめ散水する。また、センチュウは芝の表面にも付着するので、散布後もスプリンクラー等でサッチ層が全体的に十分に濡れるまで散水する。
- 花き類・観葉植物の株元灌注で使用する場合には、以下の点にも留意する。
 - 本剤の使用は幼虫防除を目的とし、株元に灌注する。
 - 薬液が葉に付着すると汚れが残るので、葉にかからないように株元に灌注する。葉に付着した場合、薬液が乾燥する前に散水し洗い流す。
- かんしょに使用する場合には、以下の点にも留意する。
 - 本剤をアリモドキゾウムシ・イモゾウムシに使用する場合は成虫並びに幼虫防除を目的とし、できるだけ多くの散布水量で株元に灌注する。

- 野菜類、豆類（種実）、いも類、花き類・観葉植物の土壤灌注で使用する場合には、以下の点にも留意する。

- ハスモンヨトウに使用する場合は老齢幼虫防除を目的とし、灌水チューブあるいは手灌注により株元に処理する。
- 灌水チューブの種類（フィルター等）によっては、センチュウが通り抜けられない場合があるので注意する。
- 手灌注する場合、薬液が葉に付着すると汚れが残るので、葉にかからないように株元に灌注する。葉に付着した場合、薬液が乾燥する前に散水し洗い流す。

- 果樹のモモシクイガに使用する場合には以下の点にも留意する。

- 土壤中に生息するモモシクイガ中・老齢幼虫～夏繭防除を目的とし、散布適期を見極めて処理する。
- 散布場所はモモシクイガ幼虫発生源土壌（果樹園、放任園）とし、雑草など植物が繁茂している場合には、それらなるべく取り除いて処理する。確実にセンチュウを土壌に処理するため、植物に付着したセンチュウを洗い流す「後散水」はより効果的である。
- 慣行防除の補完剤として密度を抑制し被害果率を下げるために使用する。慣行防除の補完剤以外の利用では効果が劣る場合もある。

- 果樹類のコスカシバに使用する場合には、以下の点にも留意する。

- コスカシバの虫糞が見られる所を中心に主幹部全体に散布し、おうとうでは収穫後、虫糞が見られる所を中心に散布する。散布液量は目安として成木に対して1～5ℓ程度とし、樹の大きさによって適宜調整する。
- 散布は小雨時に行うことが望ましい。晴天時

の散布はさける。

●さくらに使用する場合には、以下の点にも留意する。

○コスカシバに使用する場合は、虫糞が見られる所を中心に散布する。

○散布部位の樹液が多く滲出している場合は、これを除去して処理する。散布量は目安として成木に対して1～5ℓ程度とし、樹の大きさによって適宜調整する。

○散布は小雨時に行うことが望ましい。晴天時の散布はさける。

●クビアカツヤカミキリ幼虫に使用する場合は、あらかじめ、木屑排出孔の木屑を水で洗浄除去し、隣接する排出孔からあふれ出すまで十分量を注入する。処理は小雨時に行い、晴天時の処理はさける。

●たらのきに使用する場合には、以下の点にも留意する。

○センノカミキリに使用する場合は、樹皮に加害痕がある所を中心に、加害部位に集中的に散布する。散布量は目安として、成木に対し、100ml～500ml程度とし、樹の大きさによって適宜調整する。

○散布は小雨時に行うことが望ましい。晴天時の散布はさける。

●なし、りんご、いちよう、いちよう（種子）に使用する場合には、以下の点にも留意する。

○ヒメボクトウに使用する場合は、被害樹の加害痕である木屑排出孔の木屑を除去した後その排出孔を中心に薬液が滴るまで集中的に散布、あるいは排出孔内に注入する。散布・注入量は目安として、被害枝当たり200ml～800ml程度とし、被害程度によって適宜調整する。

○散布は小雨時に行うことが望ましい。晴天時の散布はさける。

●オリーブ、オリーブ（葉）に使用する場合には、以下の点にも留意する。

○オリーブアナアキゾウムシに使用する場合は、樹幹を加害する幼虫期防除を目的とし、春～初夏及び秋～晩秋にかけて処理する。

○散布場所は、地上20～30cm程度までの産卵痕がある所や木屑が吹き出している所を中心に、薬液が滴るまで散布すること。散布量は目安として、根元付近の幹直径が10cmの場合は40ml～100ml程度とし、樹の大きさによ

って適宜調整する。

○散布は小雨時に行うことが望ましい。晴天時の散布はさける。

●ヤシに使用する場合には、以下の点にも留意する。

○ヤシオオサザウムシ幼虫防除を目的とし、ヤシ樹頂部に散布する。

○散布は十分滴るように行い、散布量は目安として成木に対して10ℓ程度とし、ヤシの大きさによって適宜調整する。

●しいたけ（菌床栽培）のナガマドキノコバエ類及びムラサキアツバに使用する場合には以下の点にも留意する。

○菌床全体にムラなくしみわたるように十分量を散布する。

○菌床への散水、又は水洗浄の作業をした後に散布する。

●しいたけ（原木栽培）のハラアコブカミキリに使用する場合には以下の点にも留意する。

○本剤を使用する場合は、夕刻又は曇天、少雨時の散布が望ましい。

○原木への散水作業をした場合、その直後に散布する。

○散布後、激しい降雨が見られた場合は、効果が低下する可能性があるため、再度散布する。

【薬効・薬害等の注意】……………

●使用する直前まで冷暗所（約5℃）に保存する。但し、乾燥及び冷凍はさける。

●薬液は30℃以下の水で、直射日光が当たらない場所で調製し、調製後はできるだけ速やかに散布する。また、センチュウは沈みやすいので、常にかき混ぜながら散布する。

●芝、花き類・観葉植物、野菜類、果樹類、豆類（種実）、いも類に使用する場合は薬液の調製は、以下のとおり行う。

○1㎡当たり0.5～2ℓ処理する場合、2500万頭（約10g）を50～200ℓの水に希釈する。

●乾燥や高温の条件下ではセンチュウの効果が落ちるので使用はさける。

●地温が15℃以下ではセンチュウの活動が低下して効果が劣るので、低温が予想される場合には使用をさける。

●共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】

●眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。

●皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。

●共通注意事項6. 街路・公園・堤とう等で使用する場合は注意事項を参照。

【適用と使用法】

作物名	適用害虫名	希釈倍数 又は使用量	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	スタイナーネマカーボアザ エを含む農薬の総使用回数		
かんしょ	アリモドキゾウムシ	2億5000万頭 (約100g)/10a	500～ 2000 ℓ /10a	成虫 発生 初期	—	土壌灌注	—		
かんしょ (茎葉)	イモゾウムシ					散布			
野 菜 類	ハスモンヨトウ			老令 幼虫 発生期		土壌灌注			
ね ぎ	クロバネキノコバエ類			幼虫 発生期		株元散布			
果 樹 類	モモシンクイガ	2500万頭 (約10g)	25 ℓ	夏繭が 形成さ れる時 期～羽 化脱出 前まで				土壌灌注	
	コスカシバ							虫糞が見られる所を中心に 主幹部全体に 散布	
う め も	クビアカツヤカミキリ		2.5 ℓ	幼虫 発生期		木屑排出孔を 中心に薬液が 滴るまで樹幹 注入		—	
な し りんご いちよう いちよう(種子)	ヒメボクトウ		2.5～ 25 ℓ			木屑排出孔を 中心に薬液が 滴るまで散布 又は樹幹注入			
い ち じ く	キボシカミキリ幼虫		2.5 ℓ	産卵期 ～幼虫 喰入期		主幹及び主枝 の産卵箇所に 薬液が滴るま で塗布又は散 布			
ふさすぐり	スグリコスカシバ		25 ℓ	幼虫 発生期		虫糞が見られる所を中心に 主幹部全体に 散布			
た ら の き	センノカミキリ幼虫		2.5 ℓ			被害部を中心 に薬液が滴る まで散布			
や シ	ヤシオオサゾウムシ幼虫	7500万頭 (約30g)	25 ℓ			樹頂部に散布			
オ リ ー ブ オリーブ(葉)	オリーブアナアキ ゾウムシ幼虫	2500万頭 (約10g)	50 ℓ					樹幹部に薬液 が滴るまで散 布	

作物名	適障害虫名	希釈倍数 又は使用量	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	スタイナー・ネマカー・ボカシアを含む農薬の総使用回数
食用さくら(葉) さくら	コスカシバ	2500万頭 (約10g)	25ℓ	幼虫 発生期	—	虫糞が見られる所を中心に主幹部全体に散布	—
	クビアカツヤカミキリ		2.5ℓ			木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	
しいたけ (菌床栽培)	ナガマドキノコバエ類		2.5～5ℓ			被害菌床全体へ薬液が滴るまで散布	
	ムラサキアツバ		5～25ℓ				
しいたけ (原木栽培)	ハラアカコブカミキリ		5ℓ			被害痕が見られる所を中心にほだ木表面全体に散布	
芝	シバオサゾウムシ幼虫 タマナヤガ	2億5000万頭 (約100g)/10a	500～2000ℓ /10a	発生初期		散布	
花き類・ 観葉植物	ハスモンヨトウ			老令幼虫発生期		土壌灌注	
	キンケクチブトゾウムシ幼虫	2500万頭 (約10g)	70～140ℓ	幼虫発生初期		1株当たり 300mℓ 株元灌注	